



岩江中だより

第 47 号

発行日:平成28年 3 月 8 日

発行:三春町立岩江中学校

電話:0247-62-8290

FAX:0247-62-8380

E-mail:school@iwae-jfks.ed.jp

学校経営基本方針『こころ豊かに』～「共に」語り合い、分かち合い、成長する学校～

【命を見つめ、選手、自らの生き方について考えました。～車椅子バスケット、その後!～】

平成27年度岩江中学校「命を見つめる日」を実施し、その概要については前46号でお知らせし、卒業前の3年生の思いをご紹介しましたが、今回は、実際に車椅子バスケット・チャレンジドスポーツアカデミーを体験した1・2年生の学びをご紹介いたします。それぞれが、一つ一つの命を見つめ、自他の生き方について考えました。その一端をご覧ください。

私は、「チャレンジドスポーツアカデミー」において、辛いことや苦しいことがあっても前を向いて、明るく生きていける選手の方々の姿を見て、自分もそういう生き方をしたい、しなければいけないと強く思いました。何事もあきらめず、人に優しく、努力し続けるという生き方をしたいと考えようになりました。そして、その実現にむけ、テスト前には絶対大丈夫と思えるくらい勉強してテストに臨みました。部活動では、あきらめないでボールを追いかけるようにしました。そして、人に優しくなれるように心がけて生活してきました。



その結果、今の私は、前まで分からなかったところが分かるようになり友達に教えることもできるようになりました。部活動では、早くボールに追いつき落ち着いて打ち返すことができるようになりました。しかし、自分が納得するためにはもっと努力しなければいけないと思います。

だからこれから、さらによりよい自分の生き方の実現のために、努力するということを忘れずに、常に向上心をもって生活したいと思います。(1年)



僕は、「チャレンジドスポーツアカデミー」での選手の方々の様子から、後悔しないように日ごろから努力するということを学びました。そして、一人では何もできないし、強くもなれないので、支えてくれる人がいることに感謝しなければならぬということを強く感じました。

このようなことをきっかけに、勉強や部活で壁があっても、それを乗り越えて、いつか結果を出すという生き方をしたいと考えるようになりました。そして、その実現にむけ、勉強では、苦手なものの中心に勉強するようになり、部活はただやるのではなく、課題を決めて時間を大切にして努力するようになりしてきました。その結果、勉強では苦手なものが少しずつ減ってきました。部活では大会で勝つ回数が少しずつ多くなってきました。

これからさらによりよい自分の生き方の実現のために、毎日こつこつと提出物を出したり苦手な教科をしっかり復習して、毎日努力していきたいと思います。部活では練習時間が少ないので、時間を大切にして、課題を決めて達成できるようにしていき、大会では結果が出せるようにこれから努力していきたいと思います。(1年)

私はチャレンジドスポーツアカデミーを通して、改めて、辛くてもあきらめずにがんばることは大切だと思いました。

車椅子バスケットを体験してみたことは、まず、難しいということです。頭の中で想像していたよりも何倍も難しくてたいへんでした。でも、車椅子バスケットをやっている方たちは、ずっと笑顔でプレーしていたし最後まで粘っていてすごいなと思いました。そして、その後のお話を聞いて、私は今まで思っ



いてもできなかったことがあったので、あきらめないで何度も挑戦するという生き方をして、後悔するような人生を送りたくないと思いました。

そして、その実現にむけて、部活では気を抜いてしまうことがあったので、気を抜かずに中体連ではいい結果を残せるようにがんばりたいです。学習では、成績が上がったり下がったりで、苦手な教科も苦手なままになっていたの、これからは、苦手だから、嫌いだからといってあきらめないで、得意教科になるように毎日意識して勉強しようと思いました。

私は車椅子バスケットを体験して、お話を聞いてから、少しずつですが、勉強のやり方や時間の有効な使い方を考え直して行動してきたので、それを続けて、もっとがんばって、将来の夢をかなえられるようにしたいです。(2年)



私は車椅子バスケットを体験して学んだことがたくさんありました。まずはじめは、選手のみなさんがバスケットをしているのを見ると、とても楽しく、簡単そうに見えたということでした。しかし、実際やってみると、車椅子をうまく動かすことができない上に、ボールを扱うのも難しい状況でした。選手のみなさんは、試合中ぶつかり合ったり機敏に動き回ったりと、とても激しい試合をしていました。障がい者の方々でも熱くなれる激しいスポーツがあるのはすばらしいと思いました。選手のみなさんが笑顔で仲間たちと協力し合いながら、何事にもチャレンジする姿勢を見て、私はこれから、夢にむかってさらに努力をしたいと思いました。選手のみなさんは金メダルを取るまでにもものすごい努力をしてきたのだと思います。どんなに不自由でも、がんばっている人がいるので、私も負けないようにがんばらないといけないと思いました。どんな夢でも努力し、がんばればかなうときがくると思えるような体験でした。これからどんな困難にも立ち向かっていきたいと思いました。(2年)

私は車椅子バスケットボールを体験して、選手の人たちが楽しそうにやっているのがとても印象に残りました。大きなけがをしてしまっていて、もうふつうには戻れない中で、いかに人生を楽しく過ごすかを前向きに考えて行動していました。自分だったらショックで立ち直れずに、暗い人生を送っていると思います。実際に嫌なことがあると、すごく悲観的になっていたときがありました。そんな意味で立派だなと思いました。

もう一つ印象に残ったものがあります。それはルールです。体が不自由な人も平等に出場できるように決められていて、そこに優しさがあると思いました。

今回、私は、物事を前向きにとらえて、くよくよしないことを学びました。それは、自分に必要なことだと思うので、実現にむけて努力していきたいと思います。(2年)



私は、車椅子バスケットボールを体験して、難しさはあったけれど、普通のバスケットボールとあまり変わらないなと思いました。選手の人たちでの試合など、車椅子がぶつかり合いながらやっていて、圧倒させられました。自分が車椅子に乗っての体験は、動かすのが難しそうに思っていたものの、走り回るくらいになりました。

私は選手の人言葉で、「仲間がいたからやれている。」というものがとても心に残りました。今、楽しそうにやっているのは何かを乗り越えたからと思うと、よい人生だなあと思います。

私も隣に誰かがいてくれるだけで元気になるときがあるので、私も誰かの支えになる存在になりたいです。

始めてなかったからできなかったというのはもったいないので自信をもっていきたいです。そして、仲間を大切に、もっと前に進んでいける人生を送りたいと思います。(2年)